

都道府県別賞一等

「守る」ということ

熊本県 熊本市立出水南中学校 二年生

西原 瑞

家には多くの郵便物が届く。お店の特売案内、車の点検案内、市役所からの案内、そして保険会社からのお知らせ。お店の案内もさまざまなところからくるが、保険会社も複数の会社からやってくる。私は、このことを疑問に思い、父に尋ねてみた。

父は「保険の種類によって保険会社を変えているんだよ。」と答えた。また「医療保険は〇〇社、こども保険は〇〇社、収入保障型の生命保険は〇〇社がいいと考えて選んだ。」と教えてくれた。

こども保険は、私たちが大学に行くときのために加入した。医療保険は、自分や家族がケガや病気をした際の手術・入院費用を賄うために加入した。収入保障型の生命保険は、不測の事態に家族が不自由な生活を送ることができるように加入した。それぞれの保険に強みを持つ保険会社を選んで加入したらしい。

私は保険に多くの種類や会社があることに驚いた。と同時に父が家族のことを考えて保険に加入していることにありがたみを感じた。

そんな父も若いころは保険とは無縁だったという。就職したてのころは加入していなかった。母と結婚したときに初めて貯蓄型の保険に加入したらしい。そして子どもが生まれてからはこども保険と収入保障型の生命保険に加入したと聞いた。父は人生の大きなイベント毎に保険への加入を考えたり見直したりしている。父は働いて給料をもらい家族の生活を支えている。私はそれが日常であり当たり前のように思っていた。しかし、事故、自然災害、病気など、家族に降りかかるリスクは多く存在する。私は保険を通して、父の、何があっても家族や家族の未来を守ろう、という強い意志を感じ取った。

父のように家庭を持つ人はおそらく何らかの保険に加入しているだろう。日本中多くの人がそれぞれの思いで保険を使って家族の未来や生活を守ろうとしている。保険の郵便物を目にし保険の話聞いたことで改めて父の家族に対する思いを知り、父の優しさ、温かさ、愛情を感じた。

我が家はこれまで家族みんなが健康で過ごせているため、まだ保険を使ったことはないそうだ。

「最初に使うのはこども保険かな。あと四年後と六年後か。」私と妹の大学資金。私たちもいずれ大人になる。家庭を持つかもしれない。そのときには自分

第63回中学生作文コンクール

自身でどのようにしたら家族と家族の未来を守れるか。自分なりにしっかり考えていきたい。

父に尋ねた。「保険に加入しなくてもいい人はいるの？」

父は答えた。「何が起こっても困らないほど資産を持っている人は必要ないかもね。」

「じゃあ、うちには保険が必要ね。」と母が笑って言った。